

2019J2 ■順位表■ 第19節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	山形	39p	+12	24	12	HO
2	大宮	35p	+9	24	15	A●
3	水戸	34p	+10	20	10	H●
4	甲府	33p	+13	31	18	A●
5	京都	33p	+9	27	18	H△
6	柏	31p	+5	17	12	A●
7	金沢	29p	+10	24	14	H●
8	長崎	28p	+4	26	22	H●
9	岡山	28p	+2	23	21	HO
10	徳島	27p	+1	21	20	A●
11	琉球	25p	0	27	27	HO
12	東京V	25p	-1	24	25	
13	新潟	23p	+2	26	24	H●
14	横浜FC	23p	-2	21	23	A●
15	千葉	22p	-8	20	28	A●
16	町田	22p	-8	18	26	H●
17	山口	20p	-4	27	31	A●
18	鹿児島	20p	-4	18	22	H△
19	愛媛	19p	-7	16	23	A●
20	栃木	17p	-10	14	24	A△
21	福岡	17p	-11	17	28	
22	岐阜	12p	-22	14	36	--- ---

次回HomeGame

第22節 vs. ジェフ千葉

7/14 (日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

Living in Woods

本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

today's guest : **東京ヴェルディ**

2018 J2 19勝14分9敗 勝ち点71:6位

直近の対決と結果

2018/09/23
J2 - 34節@長良川
岐阜 1-1 東京V
風間宏矢 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	東京ヴェルディ
2019/06/22 J2 - 19節@みらスタ 山口 4-0 岐阜	2019/06/22 J2 - 19節@味スタ 東京V 0-0 大宮
2019/06/15 J2 - 18節@NACK 大宮 2-1 岐阜	2019/06/15 J2 - 18節@中銀スタ 甲府 0-2 東京V
2019/06/08 J2 - 17節@長良川 岐阜 1-3 新潟	2019/06/09 J2 - 17節@白波スタ 鹿児島 3-1 東京V

●長く暗いトンネルからの出口が見えてこない今季のFC岐阜。6/8 (土) 第17節・ホームに16位・新潟を迎えた岐阜だったが、この試合でも前半に2失点と複数失点。後半には#9山岸祐也のPKで1点差に追いつくものの、#11前田遼一が得たPKは枠を外れ、その直後に再び失点をした岐阜が1-3で敗戦。続く6/15 (土) 第18節・雨のアウェイ大宮戦では、3位・大宮に先制点を許したものの、#9山岸祐也のゴールで前半のうちに同点に追いつく。後半は大宮の猛攻に耐える時間が続き、ゴールを守り続ける岐阜だったが、試合終了直前に失点を許してしまい、1-2で敗戦。掴みかけた勝ち点を目の前で逃がす結果となってしまった。そして、これで6連敗。第18節を経過して3勝3分12敗という成績は、J2が22チーム制になり降格制度が出来た2012シーズン以降、2013シーズンに次ぐワースト2の戦績だ。しかも、他の下位チームが勝ち点を積み上げたため、21位・福岡との勝ち点差も5に広がってしまった。

この状況の下で遂にフロントが動く。6/18 (火)、3年目の指揮を任されていた大木武監督が退任。昨年まで讃岐を率いた北野誠氏を新監督に迎えて、今後のJ2残留争いを任せることとなった。なお、FC岐阜の監督交代劇は、J昇格以降では3回目となるが、最速の監督交代となった。

そして、6/22 (土) 第19節・アウェイ山口戦。北野誠新監督の初陣を勝利で飾りたい岐阜だったが、わずか3日という短い準備期間では如何ともしがたく、山口の厳しい寄せと縦への突破に苦しみ、この試合も前半で2失点。岐阜は後半も修正ができずに2失点を追加し、また攻撃ではゴールを奪えず0-4で敗戦。北野監督の初陣を飾ることはできず、7連敗を喫してしまった。

まずは最下位を脱出したいFC岐阜。しかし、7連敗で全く勝ち点を積み上げられていないため、21位・福岡と20位・栃木との勝ち点差は5。1試合の勝敗では順位が逆転できないようになってしまっているが、まだシーズンは18試合を経過した状況。つまり残り23試合があるのだと、前向きに考えたい。チームも、フロントも、そして僕らサポーターも、気持ちを新たにして、一丸となってこの難局を乗り越えていこう。

さて、北野新監督のホーム初戦となる今節の対戦相手は東京ヴェルディ。昨季はPO決勝で磐田に敗れ、悲願のJ1復帰を逃した“オリジナル10”は、新たにギャリー・ジョン・ホワイト監督を迎え、選手も大幅に入れ替わってクラブ創設50周年のシーズンを戦っている。現在は12位と若干苦しんでいる感もあるが、難しい相手であることに変わりはない。そして、通算対戦成績も岐阜の4勝5分12敗・19得点35失点と、非常に相性の悪い相手だ。ホーム戦では3勝3分5敗・13得点14失点と若干は分が良くなるが、それでも負け越している。ただし、昨季の戦績は2戦2分というのは岐阜にとって好材料と考えたい。

東京Vの要注意選手には、まずは#19小池純輝を挙げたい。現在6ゴール、直近5試合でも2ゴールと上り調子だ。コパ・アメリカに出場している日本代表に#7渡辺皓太が選出されているので東京Vの攻撃力は落ちていると思われるものの、4ゴールの#11林陵平にも注意が必要だ。今季の岐阜が低迷している最大の原因は、15試合連続で前半に先制点を失っていることで、自分たちのリズムを作れていないことだ。この課題を、北野監督が1週間でどれぐらい修正できるのか、そして選手たちも危機意識をもって変わるのか。奇しくも今節は“岐阜市民総力戦”と銘打たれた一戦。文字通り、FC岐阜を支える我々全員の総力戦で試合に臨んで、7試合ぶりの勝利を何としても掴み取りたい。まだ、長く暗いトンネルから抜け出せないFC岐阜。しかし、明けない夜は無いように、抜け出せないトンネルも無い。苦しい状況であることは間違いないが、望みがない訳ではない。この苦しい状況を打開するためにも、僕らサポーターは最後まで選手たちを鼓舞し、拍手と声援で、その背中を押し続けよう。今節こそ、勝利の“万歳四唱”を、このホームスタジアムに響き渡らせよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第17節】岐阜 1-3 新潟

●最下位の岐阜と、勝ち点5差で16位(当時)の新潟。まだ16試合を経過したばかりとはいえ、そろそろウチも勝ち点を積み上げないと厳しい状況だ。そして、ともに4連敗中の両チーム。だからこそ、勝ち点を奪いたかった…(溜息)。前日に梅雨入りしたハズなのに、まるで夏のような陽射し。そして前日の雨で湿度も上がり、蒸し暑い中でのデーゲーム。新潟の選手は岐阜の暑さに慣れていないだろうから若干は有利かな…と思ったんですが考えが甘かった。序盤から岐阜の選手の動きが悪く、ボールを支配されてしまう。うーん…前節・柏戦では、最終的には負けてしまったけれど、集中して粘りのあるプレーを見せていた選手たちが、次の試合では全く別のチームのように動けなくなってしまった。疲労回復がしっかりできていないのか、それとも走り込んでいないからなのか。しかも、#17カウエみたいな重戦車タイプのMFを止めることのできる選手がウチの中盤にいない。そして、先制点はその#17カウエがFKで流れたボールを身体(お腹?)で押し込んだもの。岐阜の選手も競り合ってはいるけれど、ゴールを阻止することはできなかった。何とか前半を1点差で折り返し、さて後半…となるハズの直後に、再びボックス内で#17カウエをフリーにして2失点目。走り込んでくる相手に誰も付いていないし、また競り合うこともできなかった。守備面の立て直しは急務だろう。ここで#11前田遼一が投入され、やっとチームの調子が上がってきたのか、岐阜も攻撃の形が出せるようになってくる。そして、#9山岸祐也の放ったシュートが新潟選手の手当たり、PK獲得。これを#9山岸が決めて1点差とし、一気にボルテージの上がるスタジアム。10分後、今度は#11前田がPA内で倒されてPK獲得。しかし、「PKでも何でも良いから同点になれば…」と願っていた思いは虚しく、まさかのPK失敗。…で、だ。確かに同点にできると思ったPKをベテランの#11前田が外して、ショックを受ける気持ちは分かる。だけどまだ時間はあるから気持ちを切り替えて試合を続けるべきだし、こういう場面の直後にピンチが待っているのはよくあること。なのに、気持ちが切れたかのようなプレーでボールを奪われてカウンターを受け、3点目を献上してしまえば、それこそ試合はほぼ終了してしまう。やはり、最下位・4連敗中という状況では、選手たちに気持ちを奮い立たせる材料が少ないということなんだろうか?願わくは、僕らの声援で少しでも彼らの気持ちを奮い立たせることができれば…。苦しみながらようやく結果を出した新潟。まだ、出口の見えない岐阜。だけど、下を向いている時間はない。気持ちを奮い立たせて、次の試合で勝ち点を奪うしかない。(ささたく)

●両クラブとも仲良く4連敗中。現時点での「最弱決定戦&裏天王山」という試合だったんだが、よかったのは懇意にいただいている新潟サポさんにお土産を渡せたことぐらい。ほぼ、完敗とっていい試合だった。それでも、なんとか乱戦に持ち込んで勝ち点1を奪えるチャンスはあったが望みは叶わず。ただ、PKが決まっていたとしても、すんなり勝ち点を手中にできていたかは疑問。3失点目を見ているのは新潟だけ。オフサイド・ルールの間隙を衝くプレーに惑わされ、瞬く間に数的不利に。試合を通して新潟のサイド攻撃、特に外国人選手のコンビネーションに翻弄されっぱなしで、いつ失点してもおかしくなかった。順位の近いクラブとの試合がこういう内容ではツライものがある。前節の柏戦で少しは光明?と思わせるような雰囲気を感じられたが、やっぱり、あれは柏が相手だったからなのか。運動量がある相手にはどうしても後手後手になってしまう。要するに走り負け。絶好の得点機会であるカウンターが発動しないのも、同じような理由だからなんだろう。キビシイね。それでも、このまま、手をこまねいているワケにはいかない。次節のナクスタでも精一杯の後押しをします。(ぐん、)

【第18節】大宮 2-1 岐阜

●梅雨の到来で、雨の降りしきるNACK5スタジアム。サッカー専用スタジアムだからピッチが近いのは良いんだけど、スタンドに屋根がないからびしょ濡れ。まあ、ゴール裏に屋根があるスタジアムの方がJ2では珍しいですよ、長良川も無いですし(苦笑)。そして、ずっと雨が降っていたのでピッチ状態も悪いかと思いきや、普通にボール転がる(苦笑)。さすがナクスタ、今年の改修で長良川も随分と良くなったと思いますが、こういう改善点はまだまだ残ってるような…。さて、試合は序盤から大宮ペース。というか、最近では岐阜が序盤にペースを握る試合を見たことがないような…(溜息)。そして、今日の試合も前半20分を経過しないうちに失点。しかも最終ラインの位置でボールを奪われての失点。あまりに勿体ない失点を献上してしまうのは今季何度目なんだろう…(溜息)。しかし、今日の試合では岐阜の攻撃が良い形を作れていた。前半30分、#24栗飯原尚平のクロスを中央で受けた#9山岸祐也が振り向きざまにシュートを撃ち、同点ゴール!そうそう、こういうシーンを見たい訳ですよ僕らは!それにしても、前半での岐阜のゴールって、今季何度目なんだろう…(苦笑)。後半になると、大宮の攻撃がさらに威力を増す。というか、#10大前元紀や#9シモビッチがベンチにいるって反則じゃないですか(苦笑)。それでも、今日の岐阜は集中して身体を張った守備ができていて、#25ビクトルの好セーブも光っていた。あと少し、あと少しで5試合ぶりの勝ち点が見えてくる…しかし、サッカーの神様は残酷だ。後半アディショナルタイムに失点。最後の最後で集中力が切れてしまう、あるいは走り負けてしまう。結果が出ていないことで、気持ちの面で悪循環に陥ってしまっているのかもしれない。これで6連敗。降りしきる雨で、身も心も冷やしてしまい、さすがに少し堪えました。それでも、僕は応援するしかないのです。(ささたく)

●梅雨空の下、雨に濡れての試合。それでも、苦境に陥っている選手達を後押ししようとかかなりのサポが集まり、試合終了まで全力のサポートをしたつもりだったがほぼサヨナラに近い敗戦。またしても勝ち点に手が届かなかった。正直、試合の序盤に、ミスと言っているような形で失点しては勝ち点は覚束ない。ただ、今回は前半の間に追いつけたし、失点の時のミス以外は総じてよく戦っていたように見えた。願わくば、後半序盤のカイケンが放った目の覚めるような弾丸ミドル、あるいは、ユーヤのゴール前の横断ドリブルからのシュートが決まっていれば……。ユーヤのシュート以降は、向こうの交替策がハマったこと、併せて、ウチの運動量が落ち、ほとんどハーフコート・マッチに。クリアするのが精一杯、それでセカンドボールをことごとく拾われ、集中砲火を浴びせられる。そんな中で、本当によく耐えた。耐えてくれたと思うし、勝ち点1まであと少しだったのだが甘くはなかった。ウチの左サイドからのクロスを一人目がスルーした時点で、自分の位置からゴールとビクトルが視界に入り、「あ、ヤバ!」と思った次の瞬間、奮闘が報われなかったという残酷な現実を突きつけるゴールが決まる。倒れ込んだまま起き上がれない選手達。それでも、声が途切れなかったウチのゴール裏には敬意を表したい。いつもなら、負け試合には無言でタオマフを掲げるのだが、この日は自然と声が出た。届けるのは檄、声援。例年なら、9月以降、残留に黄信号が点滅する頃の行動がこの時は無意識に出た。カラダの方が敏感に危機を察知したんだと思う。イヤなカラダだね、まったく(苦笑)。とにかく、ここに至っては激励しかない。ここ数年で一番のピンチが訪れている。残留という最低限のミッションを達成するためにも、精一杯後押しをしよう。(ぐん、)

【第19節】山口4-0 岐阜

●北野監督になって初采配となる試合。初陣を飾って欲しいし、勝たせたい。しかし、わずか3日間の練習でチーム戦術を変えられるはずもなく、苦しい試合になるのは最初から覚悟していた。それでも就任記者会見で「山口をぶっ倒すことしか頭にない」と言い切った北野監督の言葉に一縷の望みを託しての参戦。しかし残念ながら、勝ちたいと気迫を身体で表現できていたのは、山口の選手たちの方だった。素早く厳しくボールに寄せて奪い、カウンターを仕掛ける。後で聞くと、山口はホームで今季まだ1勝しかしていないのだとか。そんなことを感じさせないような迫力があつた。

一方の岐阜は……うーん、勝ちたい気持ちも見え隠れするけれど、どちらかというところ“迷っている”という感じ。選手たちも北野監督の指導を受けてまだ3日。そしてスタメンも布陣も（大幅ではないけれど）変更があつて、それに慣れていない選手が何人かいたように思う。そして、大木サッカー“ではない”サッカーをはじめてみると、やっぱり岐阜の選手たちのフィジカル面が弱いという事実が、残念ながら浮き彫りになってしまうのよね……（溜息）。ボールへの反応が遅れたり、競り負けたり、裏をとられたり。そうやって、次々と失点を重ねていく岐阜の選手たち。勿論、戦術が浸透していないからって原因もあるし、フィジカルだけがサッカーの要素と言うつもりは勿論ないけれど、やっぱりある程度はフィジカル鍛えてないと、どんな戦術のサッカーでも実現できないと思う。気のせいかもしれないけれど、山口の選手の方が体格も良いような気がするんですよ…。敗戦後のインタビューで、北野監督が「今まで30m以上走っていなかったみたいなので走らせたがすぐバテた」的なことを言っていると知った時に「そんなに弱いのか…」という思いと、「北野さんぶっちゃんけ過ぎだろ…」という思いが同時に沸き上がりました（苦笑）。しっかりと鍛え直していただきたいと思います。

残念ながら0-4の大敗。シュート本数でも圧倒的に差がついた。それでも、北野監督はゴール裏のサポーターに挨拶に来て「大丈夫だから」と声を掛けてくれた。その言葉を信じて、選手たちも僕らも、前を向くしかない。（ささたく）

●終了の笛が鳴らされた瞬間、自然とカラダが動いて最前列へ歩き出していた……つもりだったんだけど、歩き出してすぐに足がもつれて周りに迷惑をかけた。ごめんなさい。飛んだりとか跳ねたりとかは全くしてないのに、このテイタラク。恥ずかしい限りだ。それでも、なんとか最前列にたどり着き、挨拶に来た選手達に声を掛けた。「ここからだ！」「やれるだろ！」「いっしょに戦おう！」たぶん、こんな言葉を掛けた。もう、うる覚えだが。前節の大宮戦後には自然と声が出た。そして、この試合のこの行動。例年なら、9月以降の残留闘争で出て来るヤツだ。もう、カラダが覚えてるんだな。こんな時期に出て来るとは思いもしなかったよ（苦笑）。

山口に向かう途中でスタメンについて考えていた。どんなラインナップか。川西がスタメンという話もある。前田神は別格だが、それ以外では一番実績のある選手。後は最終ライン。王子がケガ。SB不在。なら、いっそCBを4枚並べちゃえ。右から正紀、カイケン、匠に北谷。真ん中は竹田でもいい。正紀は偽系でもいいけど、北谷は上がらず蓋で。そしたら、左の前目でフレデリックやミシャエル使えるよね。ユーヤを軸に粟飯原はやっぱりFWで。前田神との後先はどちらでも。それとコーヤは外せない。ボールを前に運べる選手だからね。そんな感じでワクワクしながら、みらスタへ着いて、フタを開けたらビックリだった。誰だよ？北野さんは守備が作れるとか言っていたヤツ。あ、ボクか。今号の「監督交替について」の投稿にもそう書いたわ。案の定というか、いつも通りに前半の早いうちに失点。ボールの位置は違ったけど、ゴール前の混戦から失点した辺りはフクアリでのソレに酷似していたように見えたが、結局スコアも内容も似たような結果。さして好調にも見えない相手に3、4回攻められたら2失点。相

手に走り負けて、主導権も握れずじまい。昨季の下関同様の完敗を喫してしまった。でも、指揮官交替から時間がなく、選手は動揺を抱えたまま、そのうえ、よりどころもない状況ではこの結果もやむなしかな？逆に、あえてこの布陣で臨んだ北野さん、スゲエなという思い。思い切った再構築が必要だが、そのためには今までの良いところに足し算していくより、良いも悪いもひっくるめてぶっ壊し、更地にするところから始めるんだなという感じがする。それで間に合うのか不安だったが、選手が引き上げた後に戻ってきた北野さんが「大丈夫。」と言ってくれた。不思議と落ち着いたような気がした。こんな静かで堂々とした「大丈夫。」は初めて聞いたかもしれない。まあ、内心はともかく、これくらいの事を言えないような人物では、今のウチを引き受けようって気にはならないかもね（苦笑）。

届いたかどうかはわからないけど、監督にエールを送って席に戻ってきたけど、どっと疲れが出て、しばらくタオマフで顔を覆ってボーっとしてただけけれども、途中で「あ、こんな格好してたらダゾオンに抜かれちゃうかも？」と考えるくらいの余裕はあつた。で、予想通り映像に流れていたのを帰路の途中で見たSNSで知った。仲間からも連絡があつた。ホント、油断も隙もあつたもんじゃない（笑）。

でも、ホントに足が動かなかったんだから仕方ないね。ただ、切り替えはできた。キビシイ状況に追い込まれてるのは紛れもない事実。だけど、こんなことには慣れている。これくらいでヘコタレたら岐阜サポなんかやってられない。とにかく、目の前の一戦、一戦。勝利を、勝ち点をもぎ取るために、選手を全力で後押ししていく。それだけだ。（ぐん）

監督交代について

●正解だと思えますがなぜ岐阜はラモス監督の時もそうですが山口との試合前に監督を解任するのでしょうか？

（ラモスを解任したことは恨んでる山口サポ）

●まずは大木監督、お疲れさまでした。

監督が着任された2017年の序盤はホントにワクワクしました。それは間違いありません。このサッカーが大成した時には「夢」としか思っていなかった昇格も現実になるんじゃないかと。ホントにそう思っていました。ただそれは叶いませんでした。

原因は色々考えられるでしょう。選手のケガが重なったとか、主力が引き抜かれたとかとか。ただ語弊を恐れず言えばシーズン中の選手のケガによる離脱は必ず発生するし、主力を引き抜かれるのもウチのチーム規模では宿命だと思います。そんな時の為に十分な層の選手を揃えるだけの予算や人脈がウチのチームには無かったのかな？と。そして主力を引き抜かれた後にも、十分な戦力を補充出来なかったのかな？と。その点については監督には申し訳なかったのかも知れませんが、今年は連敗が続き、社長からのメッセージでチームは大木監督体制で突き進むとの意思を持っていると思った時には、このままギリギリでシーズンを過ごしていくのか？と。だから正直言うと少しだけホッとしています。申し訳ありません。

後任の北野監督については讃岐の時のリアリストのイメージがありますし、就任時の記者会見の動画を見て、凄く期待を持ちました。当然ここから巻き返して行く事は並大抵の事ではありません。もしかしたら巻き返せないかも知れません。でも、チームの残留に向けての意思表示は十分に伝わりました。なので微力ながらこれからも精一杯応援させていただきます！FORZA！FC岐阜！！（ヤックル）

●最下位を脱出できない状況が続いていた以上は、ある程度というか、覚悟はしてました。監督交代（退任）もやむなし、でしょう。というか、僕は昨年の成績からすると、2シーズンで退任かもしれないと思っていたのですが……。

昨年の『岐大通』最終号にも書いたのですが、『大木サッカー

は、J2では相性が非常に悪い』のが、やはり成績不振の大きな理由でしょう。J2では主流戦術の“ハイプレス・ショートカウンター”の餌食になりやすい。また、戦術のパターン化をしていないので、選手が判断に迷って時間をロスしたり、プレーや判断でミスをする。これらの問題点は、おそらくJ1クラスの選手であれば解消できるのだと思いますが、現時点での岐阜には、その様な選手を獲得できる資金も環境も無い。そして、大木サッカーは特殊であるが故に、適応できる選手が少ない、あるいは適応するまでに時間がかかる点も成績不振の原因かと思えます。今季獲得した選手は、なかなかスタメン定着していません。そして、これは練習環境が原因でもあると思いますが、フィジカル面で相手チームの選手に負ける場面が多かったように思います。パスサッカーは全体が連動しなくてはいけないから、縦ポンよりも全員が走らないといけないのに、走れない。相手と競って当たり負けせずにパスを受けることができない。また、今季は怪我人が多く出てしまったのも痛かった。継続した練習環境の改善が行われていますが、まだまだ不足していると言わざるを得ません。そして、大木サッカーは「チョキを出されると分かっている、あえてパーを出す」サッカーでもあったような気がします。対戦相手の対策をするよりは、「自分たちのサッカー」にこだわり、その鍛錬に力を注ぐ方針であったと思えます。これら大木サッカーの特徴は、『選手の育成』という視点で見れば、良いことなのだと思います。だから実際に、有望な若手選手が加入したりレンタルで来たりする。そして、岐阜で成長してJ1に移籍した選手も輩出しました。しかし、成績を重視するトップチームで、このサッカーを続けることは難しい。ましてや、降格制度のあるリーグでは…。昨年は守備の立て直しが間に合って、何とか残留しましたが、その守備の構築を担当したという噂の長島裕明コーチが今季はいない。また、大木監督自身は絶対に認めないだろうけれど、奥様を亡くされた影響がゼロだったかどうか。こういった様々な要因が、現在のFC岐阜の成績に現れているはずなので、大木監督だけの問題というはずでもないのですが、トップチームの監督は成績不振の責任をとらなければならないのが、厳しい現実です。大木監督、本当にお疲れ様でした。そして、新たなFC岐阜の監督の名前が「北野誠」と聞いて、僕は正直、良い意味で驚きました。9年間、讃岐を率いて、昨年まで5年間、J2残留争いをしてきた監督。風の噂では、讃岐は練習施設でも資金でも岐阜よりも乏しい環境だったとか。よくウチに来てくれたな…と思ったんですが、チーム統括部長の高本さんと（現役でも指導者としても）京都繋がりがなんですね、納得です。記者会見で「自分に与えられたミッションは分かっている」と言い切った北野新監督。動画も見ましたが、ざっくばらんに、しかし適確にFC岐阜の問題点を指摘していたと思えます。不安はあります。だけど北野監督を信じて、今後も応援するしかない。あらためて、そういう決意をしています。（ささたく）

●黄金週間前後の岐大通だったと記憶しているが「監督交替は時期尚早。残留のために必要な最低限の一節平均勝ち点1を今はクリアできているから。ギリギリだけどね。」と投稿した。ただ、替えるのならもう少し早くてもよかったような気がする。社長の決意表明は何だったのか？という思いもないではないが、アレはアノ時点では出さざるを得なかったと思うことにしている。ああいう表明をしたら、その後交替をした時にどういう反応をされるか？くらいは想定していただろうから。いずれにせよ、夏の移籍ウィンドウに間に合って、最悪の状況にしなかったことだけはよかったと思う。それにしても、3年間継続すること、スタイルを構築すること、これは、こんなにも困難を極めるものなのか。『完成まで時間がかかるサッカー』が、実は『落とし込むのは簡単なサッカー』で『3年前の開幕戦・山口との試合が、既にピークだったサッカー』のおかげで、ちゃんとした戦術があると、それが攻撃にシフトしてるだけで、こんなに楽しめる、少なくとも

も『眼を見張る』ということを感じることができた。その点では大木さんに感謝している。お身内の件での対応についても頭の下がる思い、申し訳ないという気持ちがある。クラブとそれを取り巻く環境のために尽力していただいたことに心から敬意を表したい。ただ、今のウチではやりきれなかった。落とし込めても完成させることはできなかった。ウチだったからできなかったのかもしれない。ゴメンナサイ。やっぱり、庄司、シシ、もっちゃん、そしてキョーゴが残っての3年目だったら……。次の場所で完成させてください。楽しみにしています。対戦するのもいいな。欲を言えば、ウチのユースを指導して欲しいなあ。

そして、新監督に就任した北野さんについて。先述の岐大通への投稿後に、それでもイザという時のために「もし、替えるなら誰に？」とシミュレーションもしていた。今のウチに必要なのは『守備を整備できる』『J2を熟知してる』『ウチの状況（環境）がわかってる』『攻撃についても戦略を持つてる』そして何より『ウチの財力でも呼んでこられること』。もう、なんか、最初っから北野誠を想定した条件で検討していたんじゃないのか？と指摘されても仕方ないくらいだ。今の岐阜の環境、特にハード面ではリーグ・ワースト。それが昨季まではそうじゃなかった。なぜなら、讃岐がいたから。以前から、ある程度は見聞きしてたけど、北野さんの退任の際の談話やインタビューを読んで、「大変だったんだなあ。」としみじみ思った。そんな中で、讃岐をJ1に参入させて、J2に5年？も残留させた手腕と情熱。もちろん、讃岐だけじゃない。熊本での実績もある。ただひとつ。京都悶だったというのを知らなかった。それを聞いて「なんだよ〜。」って脱力したのは事実。選択肢なかったのか、と。それでも、今季だけで終わらせず、来季以降も見てみたい指揮官。それには、まず残留だけだね。とにかく、何が何でも20位にはなること。ミッションは明確。一朝一夕とはいかないだろうが、とにかく託すしかない。共に戦いましょう！

それにしても、『栗』も岐阜の名物とはいえ、よくもまあ、こんな『火中の栗』を拾ってくれたなあ。めったにいないよ？こんな奇特な方。秋には美味しい栗を美味しく召し上がっていただきたいものです。よろしくお願いします！（ぐん、）

●大木監督1年目終了時の新聞での総括記事などでは「岐阜のサッカーを確立した」とその功績が評価されていて、ぼくは心の底から恐くなった。「完成したら面白くなる」のかもしれないけど、こんなに非効率なスタイルのサッカーが『岐阜のサッカー』になっちゃったら、大木さんの退任後に誰が監督を引き受けてくれるんだ、と。

新たに就任した北野監督は、これまでの采配を思い出すとかなりのリアリスト。彼は「確立した『岐阜のサッカー』とやら」を壊すところから始めないといけな。山口戦の試合後の談話が印象的で、「30m走らせるとバテる」というのは、大木さんは「30m走らなくても（パスをつなぎ続ければ）勝てる」サッカーを目指していたということだ。同様に「守備は鍛えがいがあがる」というのは、大木さんは「守備を鍛えなくても（攻め続けていれば）勝てる」サッカーを目指していたということだ。だって、それに2年半もの時間をかけたのだから。ぼくの好きなマンガ、吉野朔実の『瞳子』に「必要のない能力は開発されない」というセリフがある。岐阜の選手は、『走る』『守る』といった「標準的な（＝特殊でない）プロ・サッカー選手」の能力開発が急に必要になった。さて、間に合うでしょうか。北野監督は「大丈夫」と言ったそうですが、「大丈夫、間に合う」という自信があるから引き受けたのでしょから、山口まで来てくれたサポーター達に1試合やっただけで「こりゃ無理ですわ」なんて言うわけがない。

でも、やっぱり思うのだ。「確立した『岐阜のサッカー』とやら」を壊すのなら、やはり監督交代はもっと早くないといけなかったし、これまでの特殊仕様を『岐阜のサッカー』としてさらに強固なものにするのなら、監督交代はしてはいけないかった。結果、J3に降格したとしても、ね。（吉田铸造）